

## 7 更生訓練所就労移行支援の現状と課題～就職を支援した事例を通して～

**指導部指導課** 鈴木理子、三好尉史、竹花治美、丸山華子、中山修司、上野久美子、春日井中、谷映志、篠原慶、

**職能部** 石渡博幸、秋山静江、若林耕司、小出千鶴子、寺本和正、加藤禎彦、近藤和弘、遠藤明宏

### 1. はじめに

更生訓練所では平成 18 年 10 月から指定障害者支援施設として、就労移行支援を開始した。その事例を紹介し、今後の支援する際の配慮点と課題の整理を行い、サービス充実につなげたい。

### 2. 事例概要

**事例1** 10 代男性。脳性麻痺(痙直型両麻痺)車椅子利用。普通高校を卒業後、当センターと利用契約。事務訓練、職場体験訓練を 1 年 2 ヶ月実施し、IT関連の会社に事務職として就職。アパートで単身生活をしながら、電車を利用して通勤。しかし、勤務直後から単身生活への不安が高まり、業務のみならず通勤も困難な状況になってしまった。精神面での落ち込みも激しく、1 ヶ月間休職した後、ヘルパー、ジョブコーチ等の支援を受けながら、勤務時間の短縮を図っての再開となった。

就職、単身生活と初めての経験が精神的に負担となり、通勤、調理、掃除、入浴等を単独で行うことが困難となった。後支援として、本人の支援体制をコーディネートし、生活及び通勤では家事援助、移動支援サービスを、職場ではジョブコーチを活用した。また、当面ご家族と同居することで精神面の安定を図った。当センター利用中は生活面で特段の問題はなく、職業面の課題を中心に支援を行っていたが、初めての就職や単身生活を開始するに当たっての不安は、当初の予想を上回るものもあり、今後単身生活の体験や職場実習等のプログラムを策定し、就職前の支援体制をより充実する必要があると思われる。

**事例2** 20 代男性。交通事故による脳挫傷(体幹機能障害、高次脳機能障害)。普通高校中退後、自営業の手伝いを行っていた 10 代で受傷。その後、病院でのリハビリを経て当センターと利用契約。職場体験訓練等を 1 年 5 ヶ月実施し、倉庫内作業員として就職。自宅から電車を利用して通勤中。高次脳機能障害の内、特に感情コントロールが不得意であり、易怒性が強い。また、注意・記憶・社会的行動障害からくる固執性も強いケースであり、対人技能から就職活動に苦慮したケースである。

感情コントロール、対人技能に大きな課題があったが、訓練への取り組み状況は真面目で責任をもって取り組むことが出来ていた。そのため、本人の長所や作業適性が発揮できる職場へのマッチングを図ることに重点を置き就職支援を行った。また、職場実習を行うと共に、会社を高次脳機能障害に対する理解を深めていただく取り組みを行ったことが就職へ結びついた要因と考えられる。職場の中で安心して、集中できる環境があったため、現在のところ対人技能上の問題は生じず就労が継続できている。

### 3. 課題

①職場体験訓練等の試行を行っているが、より困難性が高い利用者の就職に向け、質の高いサービス提供を目指して、単身生活訓練や効果的職場実習等のあり方について検討を重ねている。

②就労支援ネットワークを構築した上で、ジョブコーチなど地域資源のツールを効果的かつ積極的に活用し、職場定着を図る。